

# 21世紀における継承日本語教育： 今学ぶこと、その先にみえるもの

日時：3月26日（日）午前9時～12時半

場所：カールトン大学 St. Patrick Building (Room number #349、303)

内容：9:00	挨拶（#349）
9:05-10:05	「カナダで育つ子どもたちに『ことば』を教えるー21世紀を生きるために」 青木恵子さん（クィーンズ大学・キングストン日本語学校）（#349）
10:15-11:15	「ドラマワークで日本語の発話を促す授業のヒント」（#349） 田中香織さん（国際交流基金トロント日本文化センター）
11:15-12:20	ネットワーキングタイム（#303）
12:20-12:30	挨拶（#303）

対象：乳幼児～高等教育機関の日本語教育に携わる方、保護者の方、興味のある方

お申し込み：<http://doodle.com/poll/aqyu7w7bwqrbxri>

お問い合わせ：[hisako.hayashi@carleton.ca](mailto:hisako.hayashi@carleton.ca)（林 寿子）

JAPAN FOUNDATION  
国際交流基金



CAJLE - カナダ日本語教育振興会  
Canadian Association for Japanese Language Education

カナダ日本語教育振興会、カールトン大学 共催  
国際交流基金 協力



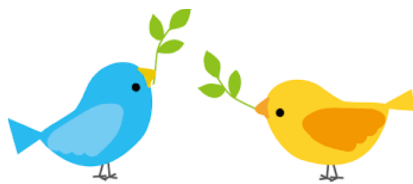
# 講師の紹介

カナダで育つ子どもたちに「ことば」を教える  
—21世紀を生きるために

青木恵子さん

クイーンズ大学・キングストン日本語教室

2010年3月にキングストンにて継承日本語教室の立ち上げに関わり、以来、保護者とともに子どもたちに日本語を教える傍ら、運営にも携わっています。継承語教育はカリキュラムなし、教科書なし、教師研修なしの「ないないづくし」と言われて久しいですが、教師としてまた親として、この7年間試行錯誤を繰り返して多くのことを学んできました。このワークショップで皆さんと共有したいと思います。前半は「継承語教育とは」について最新の知見も交えて考察し、後半はキングストン日本語教室の事例や5C's、21世紀型スキルを念頭に置いた活動例をご紹介します。



ドラマワークで日本語の発話を促す授業のヒント

田中香織さん

国際交流基金トロント日本文化センター

ある継承日本語のクラスを見学させていただいた時、「学齢が大きくなるにしたがって、聞いてわかっていても日本語で発話しなくなってしまうので会話に特化したクラスを設けたが、会話をさせる授業がなかなか難しい」と伺いました。実は継承語としての日本語教育に限らず、外国語としての日本語教育の現場でも「学習者は話す力をつけたいと言うけれど、授業で会話の練習をさせようとしてもなかなか話してくれない」という同じような悩みを耳にすることがあります。そこで今回はインプロを始めとするドラマワークを用いた活動を実際に体験していただきながら紹介していきます。授業のヒントになることを見つけてみてください。